

# 学習指導方針（スクールポリシー）

石川県立志賀高等学校

- (1) 学習状況の自己点検を通して学習意欲の向上を図り、生涯にわたって学び続けようとする意欲を育む。

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示すことにより、生徒に「何を学ぶか」を理解させるために、授業のねらいや流れを明確に示し、見通しを持って授業に取り組めるようにするとともに、振り返りにより学習状況を自己点検できるようにする。

また、既習事項を活用する場面や事象の根拠を明らかにする場面、物事を多様な観点から考察する場面を設定することで学ぶことの楽しさや達成感を味わわせ、生涯にわたって学習しようとする意欲を醸成する。

- (2) 生徒主体の協働的学習を取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図り、学力向上を実感させる。

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習過程の改善を図ることにより、生徒に「どのように学ぶか」を理解させるために、ICT等の利活用やグループ学習等の手法を積極的に取り入れることで、相互理解を深め、自己の在り方を見つめさせ、協働の大切さを実感させる。

また、地域の人材を活用した学習活動や授業の中において、自分の考えを述べたり他人の意見をしっかり聴いて質問したりする活動を取り入れることで、思考力や表現力等の向上を図るとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。

さらには、多様な生徒に対応するため学び直しを含めて基礎学力の定着を図ったり、目標に応じた課題に取り組みせたりしながら学習意欲の向上を図り、応用的な課題にも取り組みせ、解決のために粘り強く取り組む中で学力の向上を図る。

- (3) 目的意識を高め、地域や社会と連携・協働して、地域や社会のために行動や活動できる生徒を育成する。

地域や社会と連携・協働しながら、これまでの学びを人生や社会に生かそうとする人間力を育むことにより、生徒に「何ができるようになるか」を理解させるために、学校が地域や社会と連携・協働して、生徒の成長を支え、地域を創生する生徒の育成を図る。

地域や社会と連携した教育活動を活かして、学ぶことの楽しさや働くことの意義を実感させ、生徒一人一人の目標を明確にさせることにより、自ら掲げた目標の達成や課題を解決できる力を向上させる。

また、他者への働きかけや他者との協働、外部との相互作用により新たな課題の発見・解決につなげ、答えのない課題に最善解を導くことにより、地域や社会のために行動や活動できる発言力・提案力・実行力を育成する。